

授業 科目名	精神神経科学総論 (Psychiatry: General remarks)	履修年次: 必修:理・作2年	単位数: 1単位 30時間 コード: RBB213	担当教員名: 科目責任者 深見 (◆◆、●●、▲▲)
実務経験のある教員による授業科目				
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズムⅦ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では、就職した場合に必要な知識を得ることを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 1 日本の精神医療の歴史を学び、現在の日本が直面している様々なメンタルヘルスの問題について理解できるようになる。 2 精神医学領域の基本的な症状、検査法、診断基準について学び、かつ基本的な治療法について理解し、説明できるようになる。 3 精神保健福祉法について、その概略を理解する。かつ法の精神に基づき、現代日本の精神医療、精神保健に関連する分野で各職種が果たしている役割を実感する。				
〔授業の概要〕				
精神神経科学総論は以下の項目を系統的に講義する。現在先進国で主流となっている生物学的精神医学に立脚しつつ、精神現象を生物・心理・社会・倫理的な観点から複眼的に理解できるようにする。精神科医師実務経験により、精神神経科学の講義および精神医療に関する学習の支援を行う。				
キーワード:				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	4/11	ガイダンス	履修の準備、受講に関する注意事項など	深見
第2回	4/11	精神医療の必要性	精神医学・精神医療の基礎	深見
第3回	4/25	精神医学の歴史	日本あるいは世界における精神医学の歴史	深見
第4回	4/25	〃	〃	深見
第5回	5/9	精神医学の現状	精神科における診断基準について	深見
第6回	5/9	〃	〃	深見
第7回	5/23	精神疾患各論	精神疾患それぞれの特徴や問題	深見
第8回	5/23	〃	〃	深見
第9回	6/6	精神医療を取り巻く法律	精神保健福祉法とその関連法について	深見
第10回	6/6	〃	〃	深見
第11回	6/20	精神疾患の治療	精神疾患の治療法(薬物や精神療法など)の概要	深見
第12回	6/20	〃	〃	深見
第13回	7/4	精神医療と社会の関係	社会におけるメンタルヘルスの諸問題について	深見
第14回	7/4	〃	〃	深見
第15回	7/18	まとめ	授業全体を通じたまとめ	深見
履修条件	特になし			
予習・復習	指定しない。授業の中で、適宜指示する			
テキスト	指定しない、授業プリントを配布する。			
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価	定期試験 (50%)、課題 (36%)、日ごろの学習態度 (14%) により、総合的に評価する。			

授業 科目名	精神神経科学各論 (Clinical Psychiatry)	履修年次: 必修: 作2年 選択: 理2年 実務経験のある教員による授業科目	単位数: 1 単位 30 時間 コード: RBB223	担当教員名: 科目責任者 深見 (◆◆、●●、▲▲)
〔DP〕Ⅱコミュニケーション能力 Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 作業療法・理学療法の対象となる精神障害について、症状、疫学、原因と背景、診断、治療や支援の概要を理解し、実務上必要となる基礎知識を習得する。				
〔授業の概要〕 精神障害は、現代社会の臨床現場で遭遇する頻度の高い疾患である。講義および演習形式により、理学療法、作業療法を行うにあたって、必要な、それぞれの精神障害についての疾患特異的な各論的知識を習得する。統合失調症、うつ病・双極性障害などの気分障害、不安障害、身体表現性障害、適応障害、摂食障害、認知症、物質依存、パーソナリティ障害などの代表的な精神疾患の診断、評価方法、治療（薬物療法、認知行動療法など）の概要について、理解することを目的とする。 キーワード: 精神、発達、心理、福祉、神経				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/1	精神医学総論 1	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第2回	10/8	精神医学総論 2	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第3回	10/15	精神医学総論 3	精神科概要、外来・入院治療の現状	◆◆
第4回	10/22	特別講義(理学療法士)	理学療法士による現場の声	◆◆
第5回	10/29	特別講義(作業療法士)	作業療法士による現場の声	◆◆
第6回	11/5	器質性精神病 1	アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症	●●
第7回	11/12	器質性精神病 2	せん妄、身体疾患による精神症状	●●
第8回	11/19	気分障害	うつ病、躁うつ病	●●
第9回	11/26	統合失調症	統合失調症	●●
第10回	12/3	神経症 1	不安障害、パニック障害、強迫性障害	●●
第11回	12/10	神経症 2	急性ストレス障害、PTSD、適応障害、身体表現性障害、解離性障害	▲▲
第12回	12/17	人格・行動の異常 1	境界型人格障害、自己愛性人格障害など	▲▲
第13回	1/7	人格・行動の異常 2	摂食障害	▲▲
第14回	1/14	発達・知的障害 1	大人と子供の精神科的な違い	▲▲
第15回	1/21	発達・知的障害 2	精神遅滞、自閉症スペクトラム障害、ADHD等	▲▲
履修条件		特になし		
予習・復習		指定しない。授業の中で、適宜指示する		
テキスト		指定しない、授業プリントを配布する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		定期試験 80%、学習態度 20%		

授業 科目名	臨床薬理学（Clinical Pharmacology）	履修年次:必修：	単位数:1 単位 15	担当教員名： 山本達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名 9)
		理・作 2 年次	時間	
			コード:	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では理学療法士・作業療法士を中心とした保健医療専門職が習得すべき薬理学の知識、日常臨床でよく使われる薬剤についての作用機序、対象疾患、副作用について習得することを目的とする。				
〔授業の概要〕 薬理学総論から始め、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、血液系、中枢神経系に作用する薬剤について、日常臨床で頻繁に用いられる薬剤と中心に作用機序、対象疾患、副作用を説明する。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいた講義を行う。				
キーワード：循環器系薬剤、消化器系薬剤、腎・泌尿器系薬剤、血液系薬剤、中枢神経系薬剤				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	10/1	薬理学総論	薬力学、薬物動態学	
第 2 回	10/8	循環器系	降圧剤、抗不整脈薬	
第 3 回	10/15	消化器系、代謝・内分泌	消化性潰瘍治療薬、下剤、糖尿病治療薬	
第 4 回	10/22	腎・泌尿器系	利尿薬、過活動膀胱治療薬、前立腺肥大症治療薬	
第 5 回	10/29	血液系	抗血小板薬、抗凝固薬、貧血治療薬	
第 6 回	11/5	中枢神経系	抗精神病薬、睡眠薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬	
第 7 回	11/12	抗炎症薬	NSAID、ステロイド、抗アレルギー薬	
第 8 回 前半 45 分	11/19	まとめ	授業全体のまとめ	
履修条件		生化学総論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		授業プリント、教科書の予習・復習をすること。		
テキスト		休み時間の薬理学 第3版 丸山敬 著 講談社		
参考書・参考資料等		はじめの一步のイラスト薬理学 石井邦雄 著 羊土社		
学生に対する評価		定期試験 90%、学習態度 10%		

授業 科目名	老年科学 (Gerontology)	履修年次：必修：理・作3年	単位数：1単位 30時間	担当教員名： 山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名9)
		コード：RBB225		
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 高齢者の身体機能と疾患について、専門学会等による老年病についての研究成果などを活用しながら、病態の特性をふまえた観点から教授する。授業では老化に伴った臓器や身体機能の変化とその失調について、さらに高齢者のリハビリテーション医療における問題点と対策を学修する。目標としては 1 高齢者に特有の生理的变化や頻度の高い疾患を挙げ、概要を説明できる 2 高齢者の理学・作業療法を計画し、それを遂行する課程でどのような事態が想定され、どのように問題を解決すべきかについて概要を説明できる。				
〔授業の概要〕 老化の意味、高齢者の生理、頻度の多い症候・病態の概要について講義を行う。具体的な症例を提示して教科書的な知識を臨床にどう活かすかについても学修させる。次回の授業時には小テストを行い、教科書の知識の確認・修正・定着を促し、文献からはば広く、深い知識を得る重要性についても自得させる。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義する。 キーワード：老化、加齢、老年病、サルコペニア、フレイル				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	老年病総論	高齢化社会の現状と今後の課題	
第2回	4/16	加齢とは	加齢による身体機能変化、フレイル、サルコペニア	
第3回	4/23	免疫系の老化と感染症	加齢による生体防御機構の変化と感染症 誤嚥性肺炎	
第4回	4/30	呼吸器系の老化と疾患	高齢者の非感染性呼吸器疾患	
第5回	5/7	循環器系の老化と疾患	高齢者の心・血管病変、動脈硬化	
第6回	5/14	代謝・内分泌系の老化と疾患	高齢者の糖尿病・脂質異常、内分泌異常	
第7回	5/21	消化器系の老化と疾患 1	高齢者の消化器疾患	
第8回	5/28	消化器系の老化と疾患 2	高齢者の便秘	
第9回	6/4	腎泌尿器系の老化と疾患 1	高齢者の腎泌尿器疾患	
第10回	6/11	腎泌尿器系の老化と疾患 2	高齢者の排泄障害	
第11回	6/18	神経・感覚器系の老化と疾患 1	パーキンソン病診療の最前線	
第12回	6/25	神経・感覚器系の老化と疾患 2	パーキンソン症候群と脊髄小脳変性症	
第13回	7/2	血液系の老化と疾患	高齢者の血液内科疾患	
第14回	7/9	自己免疫疾患	高齢者の自己免疫疾患	
第15回	7/16	まとめ	全体のまとめ	
履修条件		内科学総論・各論、脳神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。		
予習・復習		予習：教科書の該当部分を熟読 復習：配布プリントと教科書内容の対応確認		
テキスト		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(第4版) 医学書院		
参考書・参考資料等		特になし。		
学生に対する評価		定期試験 90%, 学習態度 10%		

授業 科目名	小児科学 (Pediatrics)	履修年次 必修：理学療法学 3年	単位数：1単位 5時間 コード：RBB226	担当教員名： 高柳 正樹[医師] (非常勤講師室)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム、Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅵ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、療法士として健康と病気の小児を扱うのに必要な小児科学の知識を習得することを目指し、以下のテーマで講義を進めていく。 臓器別小児科学各論 ② 神経系の発達生物学と発達行動学 ③ 発達障害に関連する事項				
〔授業の概要〕 授業は講義形式でおこなわれる、小児科学概論には成長と発達の他の小児保健学が含まれる。小児科学各論には感染症が含まれる。神経系の授業には、脳性麻痺を含む行動発達障害が含まれる。小児科医師の実務経験により、小児科の講義に関する学習の支援をおこなう。				
キーワード：成長と発達				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10	新生児疾患	新生児疾患について解説	
第2回	4/17	遺伝、奇形、先天代謝異常症	遺伝、遺伝子に関する問題を中心に解説	
第3回	4/24	神経、筋、骨系統疾患 1	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第4回	5/1	神経、筋、骨系統疾患 2	小児リハに関連する疾患を中心に解説	
第5回	5/8	小児感染症	小児感染症について解説	
第6回	5/15	呼吸器、循環器疾患	小児呼吸器疾患、循環器疾患を中心に解説	
第7回	5/22	消化器、内分泌疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第8回	5/29	アレルギー、血液疾患、腫瘍性疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第9回	6/5	腎・泌尿器,眼科・耳鼻科疾患	小児に特有な疾患を中心に解説	
第10回	6/12	正常発育・発達およびその評価	正常小児発達とその評価について解説	
第11回	6/19	ASD、ADHDなどの発達障害	発達障害の解説	
第12回	6/26	原始反射、低緊張の評価	原始反射、姿勢反射の説明	
第13回	7/3	事故、虐待、小児救急疾患	小児救急疾患の理解と対応	
第14回	7/10	心身症、重症心身障害児（者）	心身症および重症心身障害児の解説	
第15回	7/17	予防接種、育児相談など小児保健	小児保健に関する問題点	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習：テキストにおける授業範囲を一回読む。授業当日配布された資料で復習		
テキスト		医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		定期試験（90%）、日ごろの学習態度（10%）により、総合的に評価する		

授業 科目名	授業科目名：	履修年次：必修：	単位数：1 単位 30	担当教員名：	
	臨床医学概論	理・作 3 年	時間		山本 達也 [脳神経内科医師] (研究室：仁戸名 9)
	Outline of clinical medicine	実務経験のある教員による授業科目	コード：RBBB27		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム,Ⅱ コミュニケーション能力					
〔授業の到達目標及びテーマ〕					
本授業では、リハビリテーションを実施する際に理解しておくべき症状や病態について、脳神経内科でよくみられる症候を題材として、診断から治療にいたるプロセスの習得を目標とする。					
以下のテーマで講義・グループ学習・発表を進めていく。					
①突然発症の片麻痺、②緩徐進行性の物忘れ、③手指振戦・動作緩慢、④意識障害、⑤急速進行性の四肢麻痺					
〔授業の概要〕					
理学療法、作業療法を行う際によく見聞きする症候を題材に、その症候から考えるべき病態、疾患、対処法について学習する。次に、グループ学習・発表を通じて、複数の症状を総合的にとらえる考え方を学ぶ。総合内科専門医、脳神経内科専門医の実務経験に基づいて講義・演習を行う。					
キーワード：臨床医学、症候、病態、診断、治療					
〔授業計画〕					
回 数	日付	テ ェ マ	内 容		
第1回	4/9	突然発症の片麻痺(1)	講義（脳血管障害）		
第2回	4/16	突然発症の片麻痺(2)	グループ学習・発表		
第3回	4/23	突然発症の片麻痺(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第4回	4/30	緩徐進行性の物忘れ(1)	講義（認知症）		
第5回	5/7	緩徐進行性の物忘れ(2)	グループ学習・発表		
第6回	5/14	緩徐進行性の物忘れ(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第7回	5/21	手指振戦・動作緩慢(1)	講義（パーキンソン病、パーキンソン症候群）		
第8回	5/28	手指振戦・動作緩慢(2)	グループ学習・発表		
第9回	6/4	手指振戦・動作緩慢(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第10回	6/11	意識障害(1)	講義（脳炎、てんかん）		
第11回	6/18	意識障害(2)	グループ学習・発表		
第12回	6/25	意識障害(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
第13回	7/2	急速進行性の四肢麻痺(1)	講義（脊髄炎、ギランバレー症候群）		
第14回	7/9	急速進行性の四肢麻痺(2)	グループ学習・発表		
第15回	7/16	急速進行性の四肢麻痺(3)	グループ学習・発表（課題レポート提出）		
履修条件		神経内科学総論・各論を履修していることが望ましい。			
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習にはノートの見直しを推奨。			
テキスト		「脳神経内科学」 高橋伸佳編・著 理工図書			
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。			
学生に対する評価		定期試験（50%）、課題レポート（50%）			

授業 科目名	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	履修年次: 理3・作3	単位数: 1単位 30時間	担当教員名: 金子 徹 [リハビリテーション科医 師] (研究室: 仁戸名2)
			コード: RBB308, RBB228	
		実務経験のある教員による授業科目		
[DP] III 実践に必要な知識, VI 多職種との協働				
[授業の到達目標及びテーマ]				
リハビリテーション医学は多職種チームの協働により、対象となる患者や障害者に社会参加を実現するプロセスである。医療の分野では医学的リハビリテーションに関して必要な知識・技術に基づいたチームアプローチが求められる。下記の授業概要に記載した内容を理解できるようにする。				
[授業の概要]				
理学療法・作業療法に関わる医学的リハビリテーションにおけるチーム医療のあり方、リハビリテーション医療の流れ、各障害の捉え方と評価、治療の流れを学習し、リハビリテーション医学に関する代表的な疾患について、その障害特性の把握に基づいたリハビリテーション医療の展開を理解する。リハビリテーション科医師の実務経験に基づき学修の支援を行う。				
キーワード: 疾患の理解、障害評価、チームアプローチ				
[授業計画]				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/15	リハ医学総論	リハビリテーション医学概論、障害の理解	
第2回	4/22	運動器疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第3回	5/13	関節リウマチのリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第4回	5/20	脳卒中のリハ医学 (1)	脳卒中で生じる障害とその評価	
第5回	5/27	脳卒中のリハ医学 (2)	脳卒中に対する急性期リハビリテーション	
第6回	6/3	脳卒中のリハ医学 (3)	脳卒中に対する回復期・生活期リハビリテーション	
第7回	6/10	四肢切断後のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第8回	6/17	脊髄損傷のリハ医学 (1)	脊髄損傷で生じる障害とその評価	
第9回	6/24	脊髄損傷のリハ医学 (2)	脊髄損傷に対するリハビリテーション医療の展開	
第10回	7/1	末梢神経障害のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第11回	7/8	内部障害のリハ医学 (1)	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第12回	7/15	高齢者、終末期のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第13回	7/22	小児疾患のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第14回	7/24	神経難病のリハ医学	障害の理解とリハビリテーション医療の展開	
第15回	7/29	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの展開	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習より復習を重視する。復習にはノート・レジュメの見直しを推奨する。		
テキスト		「リハビリテーション医学・医療コアテキスト 第2版」医学書院刊		
参考書・参考資料等		特になし		
学生に対する評価		定期試験(90%)、日ごろの学習態度 (10%) により評価する。		

授業科目名：理学療法概論 (Principal of Physical Therapy)	必修：	1 単位 30 時間	担当教員名： 堀本 佳登 [理学療法士] (仁戸名研究室 10)
	理学 1 年	コード：RPB300	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識，Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、理学療法士としての基本的知識、態度を身につけることを目標に、以下の講義内容に演習形式の講義を加えて、授業を進めていきます。 ① 理学療法の位置づけとその範囲を学ぶ。 ② 理学療法の歴史と関連する法制度を知る。 ③ 専門職種としての資質向上のための知識と適正を習得する。			
〔授業の概要〕 理学療法とは何か、理学療法学の倫理・哲学を考え、理学療法の歴史辿ってリハビリテーション医学における理学療法の占める位置や法制度を考える。理学療法を実践するための目的や原理、国際障害分類と理学療法思考モデルといった流れなどについて理解し、海外と本邦、そして千葉県の首都圏近郊型特性と農業・漁業中心の地域型特性を踏まえた上で、各々の生活形態の特徴に応じた理学療法の相違も併せて考える。理学療法の評価および治療体系を学び、基本的な知識と理学療法士としての適性を修得する。 キーワード：理学療法学、運動療法、物理療法、適性、臨床実習			
〔授業計画〕			
回 数	テ ィ マ	内 容	
第 1 回(4/16 Ⅱ)	ガイダンス	受講に関する注意事項	
第 2 回(4/23 Ⅱ)	理学療法の役割と職域	理学療法の役割と職域について学ぶ	
第 3 回(4/30 Ⅱ)	理学療法の役割と職域	理学療法の役割と職域についてまとめる	
第 4 回(5/7 Ⅱ)	理学療法とリハビリテーション	理学療法とリハビリテーションについて学ぶ	
第 5 回(5/14 Ⅱ)	理学療法とリハビリテーション	理学療法とリハビリテーションについてまとめる	
第 6 回(5/21 Ⅱ)	理学療法士の資質と適性	理学療法士の資質と適性について学ぶ	
第 7 回(5/28 Ⅱ)	理学療法士の資質と適性	理学療法士の資質と適性についてまとめる	
第 8 回(6/4 Ⅱ)	理学療法の対象と疾患	理学療法の対象と疾患について学ぶ	
第 9 回(6/11 Ⅱ)	理学療法の対象と疾患	理学療法の対象と疾患についてまとめる	
第 10 回(6/18 Ⅱ)	理学療法の治療手段	理学療法の治療手段について学ぶ	
第 11 回(6/25 Ⅱ)	理学療法の治療手段	理学療法の治療手段についてまとめる	
第 12 回(7/2 Ⅱ)	理学療法と報酬	理学療法と報酬について学ぶ	
第 13 回(7/9 Ⅱ)	理学療法と報酬	理学療法と報酬についてまとめる	
第 14 回(7/16 Ⅱ)	車いす	車いすについて学ぶ	
第 15 回(7/30 Ⅱ)	車いす利用者に対する介助	車いす利用者に対する介助方法を体験する	
履修条件	特になし		
予習・復習	予習としてテキストの該当単元を熟読する。復習は講義内容を基に、適宜テキストを参照する。		
テキスト	「理学療法概論」奈良 勲（医歯薬出版社） 「PT・OT のための実用・実践コミュニケーション術」金田嘉清・他（金原出版）		
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	レポート（85%）、授業時の学習態度（15%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	理学療法管理学 Science of physical therapy management	履修年次:	単位数:2 単位	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室 1)、村永 信吾、松田徹(非常勤講師) [いず れも理学療法士]
		必修 理 4 年	コード:RPB200	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅳ生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① 理学療法士を取り巻く環境の理解、②職場における部門管理(マネジメント&リーダーシップ)を理解する、③管理するための測定(安全・効果・満足度)とそのフレームワークを理解する、④専門職としての学びと組織学習について理解する、⑤就業規則と労務管理、⑥コンフリクトとハラスメントの理解する、⑦診療報酬・介護報酬の仕組みを理解する、⑧臨床における診療工程を理解する				
〔授業の概要〕				
理学療法管理学では、保健・医療・介護領域において、質の高い理学療法を提供し続けるために必要な継続的改善を推進するための部門マネジメント(プロセス管理、時間管理、人材管理など)を学ぶ。加えて職業人としての働き方及び段取り(個人のマネジメント)、コンフリクト等への対応について学ぶ。単なる管理者のための管理学ではなく、一般職員としても期待される管理能力についても理解する。				
キーワード: マネジメント、リーダーシップ、医療の質、人材育成、職場環境				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/1 Ⅲ	理学療法士を取り巻く環境	医療介護を取り巻く環境の変化の理解	村永信吾
第2回	10/1 Ⅳ	理学療法管理学とは	マネジメントとリーダーシップ	村永信吾
第3回	10/8 Ⅲ	医療の質とは	ドナベディアンモデル	村永信吾
第4回	10/8 Ⅳ	管理することは測定すること	管理指標の理解	村永信吾
第5回	10/15 Ⅲ	基本的診療工程の理解	時間管理とプロセス管理	村永信吾
第6回	10/15 Ⅳ	基本的診療工程の理解	安全管理、感染管理の理解	村永信吾
第7回	10/22 Ⅲ	医療介護制度	医療保険・介護保険制度の理解	松田徹
第8回	10/22 Ⅳ	医療介護制度	理学療法士職域拡大	松田徹
第9回	10/29 Ⅲ	キャリア構築	キャリアとは何か	松田徹
第10回	10/29 Ⅳ	キャリア構築	職場教育の理解と進め方	松田徹
第11回	11/4 Ⅲ	研究倫理・職業倫理	倫理を理解する	室井大佑
第12回	11/4 Ⅳ	研究的思考の重要性	研究的思考の重要性を理解する	室井大佑
第13回	11/11 Ⅲ	生涯学習	協会等の生涯学習の意義	室井大佑
第14回	11/19 Ⅲ	労務管理	労働法と就業規則	村永信吾
第15回	11/19 Ⅳ	労務管理	全体総括 村永信吾	村永信吾
履修条件		特になし		
予習・復習		予習: キーワードに対して事前に調べておく、復習: 毎回前回講義の確認を行う		
テキスト		配布資料		
参考書・参考資料等		理学療法管理学 監修 植松光俊 (南江堂) リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック 編集 金谷さとみ他 メジカルビュー		
学生に対する評価		レポート提出 (80%)、学習態度 (20%)		

授業科目名： 運動療法学 Therapeutic Exercise	必修：理2年	単位数：2単位 コード：RPB201	担当教員名： 堀本佳誉〔理学療法士〕 (研究室：仁戸名研究室10) 稲垣武〔理学療法士〕
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 運動療法の基礎となる隣接領域の知識を習得し、運動が身体の諸機能に及ぼす影響を説明できるようになる。			
〔授業の概要〕 理学療法の中核的治療手段である運動療法の科学的根拠について学ぶ。運動療法の基盤となる運動学、運動生理学、神経科学、トレーニング科学について理解を深め、機能・構造障害に対する運動療法を展開していくための基礎知識を習得する。			
キーワード：運動療法総論、機能・構造障害			
〔授業計画〕			
回数	テーマ	内 容	担当者
第1回(4/15・Ⅱ)	ガイダンス 概論	受講に関する注意事項 運動療法とは	堀本
第2回(4/22・Ⅱ)	運動	運動の起こる仕組み	堀本
第3回(5/13・Ⅱ)	運動	随意運動発現と姿勢制御のメカニズム	堀本
第4回(5/20・Ⅱ)	運動学習・指導	運動学習、動機づけ	堀本
第5回(5/27・Ⅱ)	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法	堀本・稲垣
第6回(6/3・Ⅱ)	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法の実際（上肢）	堀本・稲垣
第7回(6/10・Ⅱ)	関節可動域	関節可動域制限に対する運動療法の実際（下肢・体幹）	堀本・稲垣
第8回(6/17・Ⅱ)	関節可動域	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動	堀本・稲垣
第9回(6/24・Ⅱ)	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動（上肢）	堀本・稲垣
第10回(7/1・Ⅱ)	抵抗運動	筋パフォーマンス向上のための抵抗運動（下肢・体幹）	堀本・稲垣
第11回(7/8・Ⅱ)	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
第12回(7/15・Ⅱ)	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
第13回(7/22・Ⅱ)	バランス	バランス能力改善のための運動療法	堀本・稲垣
第14回(7/24・Ⅱ)	有酸素運動	有酸素運動の基礎	稲垣
第15回(7/29・Ⅱ)	有酸素運動	有酸素運動の実際	稲垣
履修条件	特になし		
予習・復習	予習としてテキストの該当単元を熟読する。復習は配布資料を基に、適宜テキストを参照する。		
テキスト	「運動療法大全 I 基礎編」第6版 ガイアブックス		
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	定期試験（85%）、授業時の学習態度（15%）により、総合的に評価する		